

事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から

平成 29 年 3 月 31 日まで

1 事業の概況

国内においてはいろいろな景気対策・地方創生施策が打たれておりますが、人口の一極集中傾向が進み、一方で地方においては少子・高齢化と人口減少が止まる気配を見せず、依然として厳しい状態が続いております。

阿佐東地区につきましては、これらの厳しい環境の先進地区であります。当社が運営する阿佐東線が地元住民や四国遍路をはじめとする観光客の移動手段としての役割を果たすため、平成 28 年度も輸送の最大の使命である安全・安定輸送を最優先として事業に取り組んでまいりました。

安全面につきましては、鉄道の安全・安定輸送完遂のため列車の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、車両・設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組ましました。7 月には鉄道輸送業務に係る日常業務をはじめ輸送の安全に対する取り組みについて国土交通省による保安監査を受けております。輸送の安全に関しましては、10 月に他の優良事業者とともに、第 23 回「鉄道の日」四国運輸局長表彰を受けております。また、JR など社外の研修、講習会、訓練にも積極的に参加し、社員の知識・技能の向上を図っております。さらに地元の小中学校と連携し、臨時列車を使用して地震・津波避難誘導訓練を実施し、発災時の社員の対応能力の維持・向上を図りました。

営業面では「きゅうりタウン構想記念きっぷ」、阿佐東地域観光ツアー造成に伴う「四国みぎした 55 フリーきっぷ」の発売、運転免許返納者に対する運賃割引制度を導入しました。利用促進策としましては「お花見列車」「こいのぼり列車」「てるてる坊主列車」「夏の自然体験ツアー」「風鈴列車」「天の川列車」「阿佐鉄フォトコンテスト」「サンタ列車」「イルミネーション列車」「なごみ列車」「阿佐東線満喫ツアー」など当社のイベントを実施し、また「宍喰伊勢エビ祭り」「商工産業祭」「JR 四国鉄道の日ふれあい祭り」「活竹祭」など地域の各種のイベントに参加し、誘客活動やブース出店などを行い、利用促進のための PR とグッズ販売を行いました。イベントによっては臨時列車を運転し、利用客の利便性と収入の確保に努めました。

さらに、地元の方にマイルール意識を持っていただくため、地元中学校において阿佐東線をテーマとした総合学習の実施、地元中学生の職場体験の受け入れ、地元小中学生の俳句・図画作品の車内および宍喰駅コンコースへの展示、幼稚園児による一日車掌・体験乗車やクリスマスツリー飾りつけを行いました。「あさてつファンクラブ」の会員数確保のため、入会の勧誘に努めました。

費用面では、当期は災害や大きな修繕はありませんでしたが、平成24年度から取り組んでいる「新経営計画」に基づき、人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、輸送人員は前期に引き続き当期におきましても増加し、六期連続で前期を超えることができました。定期外人員は47,262人(対前年比119.1%)、定期人員は3,900人(対前年比83.3%)となり、合計で51,162人(対前年比115.3%)となりました。なお、阿佐東線が利用できるフリータイプのきっぷにつきましては、ご利用実態にかかわらず、発売実績に応じて輸送人員を計上しており、特にJR四国が中心となって四国内の全鉄道会社が連携して実施している外国人観光客用の「ALLSHIKOKU Rail Pass」の発売が大変好調であることから、対前年度を大きく上回ることができました。

また旅客運輸収入につきましても僅かながら前期を上回ることができました。

損益につきましては、営業収益が9,054千円(対前年比99.2%)、営業費用が70,949千円(対前年比89.6%)、営業外収益が12,274千円(対前年比204.3%)、営業外費用が1,354千円(対前年比95.2%)となり、当期経常損失は50,974千円(対前年比77.8%)となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純損失は1,154千円となりました。

これらの実績を分析しますと、輸送人員につきましては、外国人観光客用の「ALLSHIKOKU Rail Pass」の発売が毎年大きく伸び続けており、当社の輸送人員増加に繋がったことと、割引率が大きいため当社の1枚あたりの収入は少ないものの、発売枚数が大幅に増加したことにより、旅客運輸収入も前期を上回る結果となりました。営業費用は前期のような災害復旧費の支払いがなかったこと、減価償却費が減少したことなどにより、前期より大きく減少しました。一方で阿佐東地域観光ツアー造成に伴い営業外収益が増加したことから、当期経常損失は大きく減少しました。

今後も阿佐東地区の少子・高齢化、人口減少といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられますが、地元住民と四国遍路などの観光客の大切な移動手段として活用されるよう鉄道輸送の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。

なお、DMV(デュアル・モード・ビークル)につきましては、阿佐東線存続の切り札として、また、観光の起爆剤として地方創生に寄与する乗り物として大いに期待されております。2月3日に開催した、当社と沿線自治体などで構成する「阿佐東線DMV導入協議会」の第2回会合において、2020年の「東京オリンピック・パラリンピックまでの運行開始」を目標として決めました。今後、国や自治体をはじめとする関係機関との連携をさらに強化し、示したスケジュールに遅れが生じないようにしっかりと取り組んでまいります。